

第5章 愛媛の現状と社会の転換

2. 全県一律な整備からの脱却 — 最適最小ネットワークによる優先整備(1)

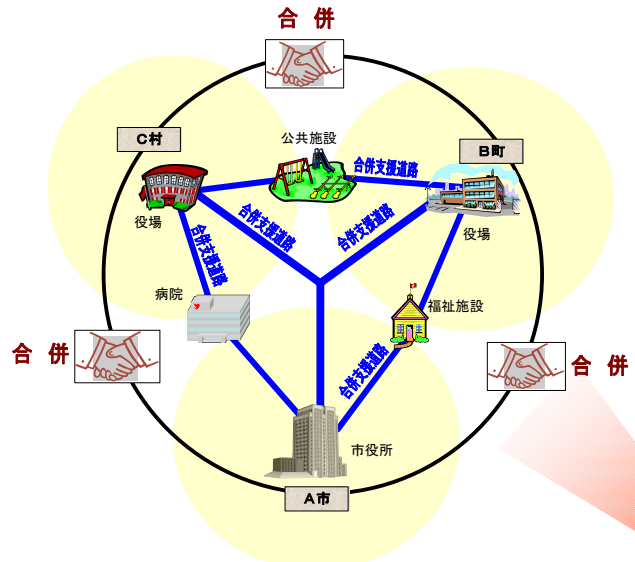
愛媛県に必要な道路ネットワークをつくります

これまでの、道路整備では、全ての道路を改良することを目標としてきました。全ての道路が改良され愛媛県内の道路ネットワークが完成すると、県内のどこに住んでいても自由に快適な移動ができるようになり、医療や福祉を始めとする様々なサービスを受けられるようになるので、県民のみなさまが安心して快適に暮らせるようになると考えてきたからです。この考えは今でも基本的には変わっていません。しかし、現状は愛媛県が管理する道路の3分の1以上は改良されておらず、その一方で昨今の財政事情の悪化により道路整備への投資額は年々減少しています。このような状況では、全ての道路が改良されるのは、何十年も先となってしまいます。

転換期を迎えた現在の社会においては、全ての道路を時間をかけてまんべんなく整備することよりも、より整備効果の高い道路をできるだけ早く整備することが求められていると考えています。そこで、愛媛県では、県が管理する道路の中から県民のみなさまが安心して快適に暮らしていくうえで最小限必要な道路網を「最適最小ネットワーク」=「重要路線(180路線)」として位置づけ、この「重要路線」の整備を国体開催予定の平成29年度までの中長期の目標としました。

●重要路線のイメージ

●市町村合併支援道路



キーワード

市町村合併支援道路

合併後の市町村の一体化に寄与する道路のこと

- ・ 合併市町村の中心地と地域内の関係(旧)市町村の中心部を最寄りて連絡する道路
- ・ 合併関係市町村内の公共施設等について、合併市町村の住民による共同利用を促進させるのに必要なアクセスの道路

●緊急輸送路

重要路線は最適最小ネットワーク

県民のみなさまの安心快適なくらしを支える道路を抽出するにあたっては、①広域交流・連携から日常の移動までをカバーする「県都60圏域内30アクセスプラン関連道路」、②緊急時や災害時の活動を支える「緊急輸送路」および③市町村の合併を支える「市町村合併支援道路」の3つの観点から、最適最小ネットワークとなる重要路線網を抽出しました。

それぞれの観点で選ばれた路線は、個々に独立したものではなく、お互いに重なり合う部分を持っており、重なった路線では複数の機能を持った路線となっております。また、これらの観点のうち、県都60アクセスプラン関連道路と緊急輸送路は幹線道路ネットワークを中心に構成され、圏域内30アクセスプラン関連道路や市町村合併支援道路は、比較的限られた地域内の移動で用いられる生活道路を中心に構成されるネットワークであると言えます。地域間を連絡する道路や各地域内で必要な道路を選んでいることから、重要路線を整備することで、全県の均衡ある発展につながると考えられます。

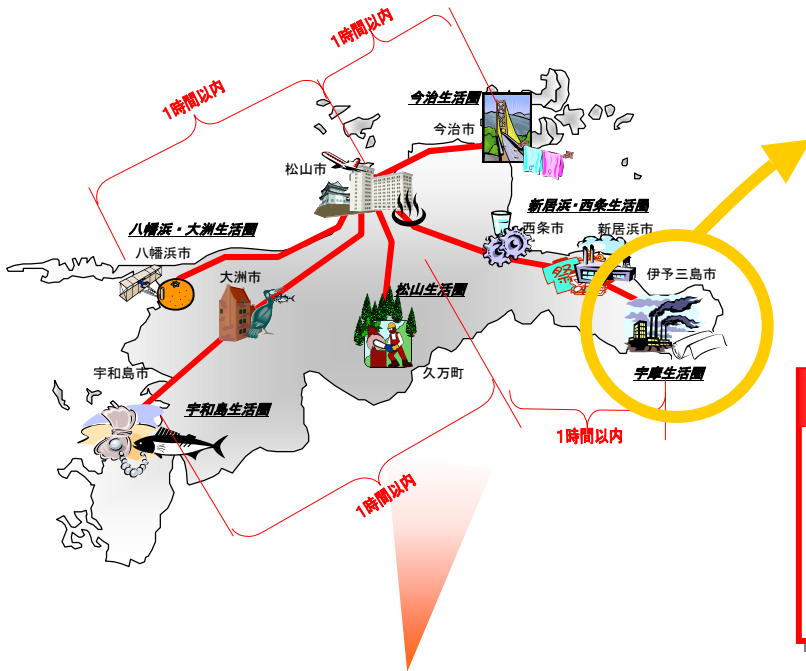


キーワード

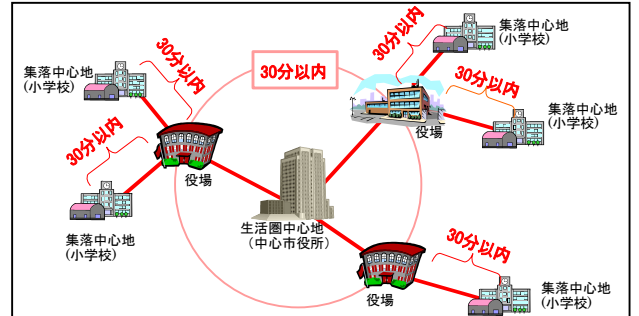
緊急輸送路

「愛媛県地域防災計画(震災対策編)」において、地震等緊急災害時に輸送路の迅速な指定が行えるよう、緊急輸送路として、あらかじめ選定されている路線ネットワークで、人員、物資等の輸送等の応急活動を円滑に行えるよう防災対策を施すこととしている路線

● 県都60アクセスプラン関連道路



● 圏域内30アクセスプラン関連道路



キーワード

県都60・圏域内30アクセスプラン

第5次愛媛県長期計画「新しい愛媛づくり指針」(H12.3策定)において、全ての生活圏中心都市と県都松山市を60分で、市町村役場と生活圏中心都市および集落中心地と市町村役場を30分で結ぶことを目標としている

● 最適・最小ネットワーク (重要路線)



- 交通拠点等連絡道路
- 観光地連絡道路
- 県際道路
- 医療・福祉等関連施設連絡道路
- 産業道路
- 渋滞対策道路
- ボトルネック対策(離合困難解消)道路 他

地域固有の課題

さらに優先度の高いところへ
重点投資

第5章 愛媛の現状と社会の転換

2. 全県一律な整備からの脱却 — 最適最小ネットワークによる優先整備(2)

さらに優先度の高いところに重点投資

限られた予算を有効的に活用し、より効率的な整備を図るために、「重要路線」の中から、優先的に整備することでより早く大きな効果が得られるところや緊急的な課題を抱えているところへ重点的に投資していき、さらに、路線数においても、半分程度へ重点投資を行っていきます。

重点投資箇所については、下記の項目のほか、地域固有の課題に対応していく道路も含め、年度ごとに抽出していき、地域の状況や県民のみなさまのニーズに的確に対応していきます。

●当面の優先整備の項目(例)

項目	概要	イメージ
交通拠点等 連結道路	<p>主要な交通拠点と最寄の改良済み国道を連絡する道路又は高速道路ICを連絡する道路を優先的に整備し、複数の交通機関の連携や効率的な輸送体系の確立をめざします。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松山空港へ接続する道路 ・特急停車駅へ接続する道路 	
観光地連絡道路	<p>主要な観光地と最寄の改良済み国道を連絡する道路又は高速道路ICを連絡する道路を優先的に整備し、多くの方に愛媛の魅力にふれてもらい、観光地の活性化と観光産業の発展をうながします。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国88ヶ所寺へ接続する道路 ・年間入込み客数の多い観光地へ接続する道路 	
県際道路	<p>隣接する県と密接な交流がある地域又は連携して開発等を行う上で重要な道路を優先的に整備し、四国や環瀬戸内地域の発展とその一員である愛媛県のポテンシャル向上を図ります。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国西南県際交流圏に位置する道路 ・瀬戸内しまなみ県際交流圏に位置する道路 	
医療・福祉等関連 施設連絡道路	<p>生活する上で必要な公共施設等へ連絡する道路又は、その他事業計画と整合を図りながら整備を進める必要のある道路を優先的に整備し、県民のみなさまの暮らしを向上します。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度な医療施設へ接続する道路 ・高齢者福祉施設へ接続する道路 	
産業道路	<p>工業地帯や選果場、漁港等の産業集積地へ連絡する道路を優先的に整備し、物流の効率化を図り、地場産業の発展や地域経済の活性化をめざします。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な漁港へ接続する道路 ・工業団地へ接続する道路 	
渋滞対策道路	<p>都市内の渋滞を解消するための道路を優先的に整備し、渋滞によるドライバーへの負担を低減するとともに、都市の活性化、物流の効率化をはかり、活力ある街を築きます。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渋滞対策を要する交差点のある道路 	
ボトルネック 対策道路 (離合困難箇所解消)	<p>中山間地における見通しの悪い箇所や狭幅員部等の「ボトルネック」箇所により円滑な交通が確保されていない道路を優先的に整備し、走行時の快適性や安全性の向上をめざします。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きついカーブが複数あり、走りにくい道路 ・異常気象時に事前の通行規制を行う区間を含む道路 	
その他	地域固有の課題に関連する道路	

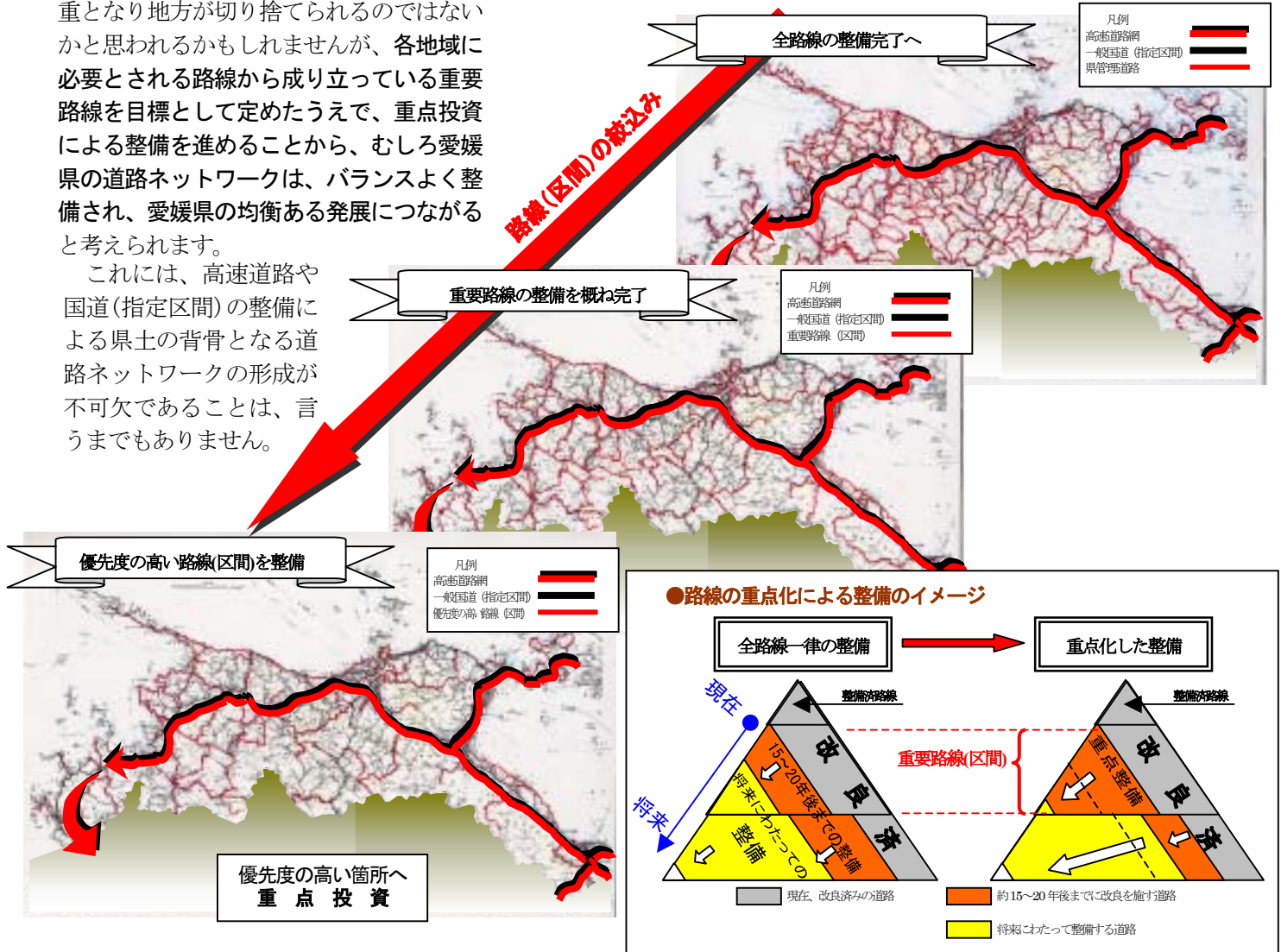
重点投資で目指す真の均衡ある発展

重点化というと、ともすれば、都市部偏重となり地方が切り捨てられるのではないかと思われるかもしれませんが、各地域に必要とされる路線から成り立っている重要路線を目標として定め、重点投資による整備を進めることから、むしろ愛媛県の道路ネットワークは、バランスよく整備され、愛媛県の均衡ある発展につながると考えられます。

これには、高速道路や国道(指定区間)の整備による県土の背骨となる道路ネットワークの形成が不可欠であることは、言うまでもありません。

●路線の絞込みのイメージ

※ 下記の数値は、例示であり予算、投資規模等を示すものではありません。
 ※ 下図はイメージ図であり具体的なルート、位置等を規定するものではありません。



効果発現のスピードアップで早く満足感を提供します

これまでのように、全ての道路を対象に満遍なく整備を行った場合でも、道路が整備されると一定の効果が現れるので、道路に対する満足度は着実に上昇していました。

重点投資は、重要な路線を対象に優先的に整備することとなるため、満足度の上昇が高くなります。また、重点的に整備されるとより高い効果が早期に現れその後長期間にわたって持続します。重要度の高いものから整備を進めて行くと、重要路線の整備が終わったあたりから満足度の上昇度は緩やかになりますが、これまでに整備した道路から得られる効果を十分に受けることができるため、道路に対するトータルの満足度は高い水準を保ちます。全ての路線が整備されたときの効果は整備の順序に関係なく同じなので、最終的な満足度は変わりませんが、それまでの過程が異なりますので、トータルで得られる満足はとて大きくなります。

●整備の重点化による早期効果発現のイメージ

